

CentreCOM® 9006SX/SC リリースノート

この度は、CentreCOM 9006SX/SC をご購入いただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いた
だきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1. ソフトウェアバージョン 2.0.0J

2. 本バージョンでの制限事項

2.1 RMON 機能について

 「オペレーションマニュアル」2-16 ~ 2-17 ページ

RMON alarm, event は、現在未サポートとなっています。あらかじめご了承ください。

2.2 スタティック MAC アドレステーブルについて

以下の機能は、現在未サポートとなっています。あらかじめご了承ください。

スタティック MAC アドレス表示「All Static MAC Addresses」

 「オペレーションマニュアル」2-92 ページ

スタティック MAC アドレスの追加・削除「Add MAC address/Delete MAC address」

 「オペレーションマニュアル」2-94 ~ 2-97 ページ

マルチキャストアドレスの追加・削除「Add MAC address/Delete MAC address」

 「オペレーションマニュアル」2-99 ~ 2-102 ページ

スタティック MAC テーブルの消去「Clear static MAC table」

 「オペレーションマニュアル」2-103 ページ

2.3 Xmodem ダウンロード機能について

 「オペレーションマニュアル」2-26 ~ 2-27 ページ

[XModem software update to this system]メニューを実行後、ソフトウェアのダウンロード
をやむをえず中断する場合は、電源ケーブルを接続しなおしてください。

2.4 送信フレームの統計情報「Multicasts」について

 「オペレーションマニュアル」2-14 ~ 2-15 ページ

[Ethernet statistics]メニューの「Transmit Statistics Graph」画面 / 「Total Good Transmits」
画面において、他のポートで受信したソースアドレス未学習のユニキャストパケットは、
「Multicasts」としてカウント表示されます。

2.5 SNMP 機能について

[Administration] メニューの [Reset and restart the system] 実行時(ソフトウェアリセット時)に出力されるトラップは、coldStart です。

2.6 設定変更時のご注意

システムの設定変更(ミラーリング機能設定をのぞく)を行った後は、[Main Menu]-> [Administration] とすすみ、[Reset and restart the system] メニューを実行し、システムをリセットしてください。

2.7 QoS 機能について

 「オペレーションマニュアル」2-74 ~ 2-76 ページ

本製品QoS機能は、ソースアドレス学習済みのユニキャストパケットのみ対象に制御しています。

2.8 1000BASE-X/1000BASE-Tアップリンクポートポートのポートミラーリング機能について

 「オペレーションマニュアル」2-55 ~ 2-57 ページ

本製品のソフトウェア(プロトコルスタック部分)から送信されるパケット(BPDU、ARP reply、trap など)は、ミラーリングされません。

2.9 スパニングツリー機能について

IGMPスヌーピングが動作している環境で、スパニングツリー機能を使用することはできません。IGMPスヌーピング機能とスパニングツリー機能は併用しないでください。

2.10 1000BASE-X ポートについて

1000BASE-X ポート同士の通信において(AT-A15 同士のカスケード接続、CentreCOM 9006SX/SC同士のカスケード接続、AT-A15とCentreCOM 9006SX/SCのカスケード接続)、ソフトウェアバージョンの組合せによっては、正しく通信できない場合があります。1000BASE-Xポート同士の通信を行う場合は、必ずスイッチ本体を以下に示すソフトウェアにバージョンアップしてからご使用ください。

CentreCOM 8216FXL/SC	: バージョン 2.0.0J 以降
CentreCOM 8224XL	: バージョン 1.2.12J 以降
CentreCOM 9006SX/SC	: バージョン 1.0.5J 以降

1000BASE-Xポートを使用する場合は、スイッチ本体に電源を入れてから、光ファイバケーブルの接続を行うようにしてください。また、通信に問題が発生した場合は、光ファイバケーブルの抜き差しを行うようにしてください。

光ファイバケーブルのTXもしくはRXのどちらか一方のみを抜き差ししないでください。光ファイバケーブルの抜き差しは、必ずTXとRXの両方を行ってください。

本製品は、[Port status and configuration]メニュー内において、1000BASE-Xポートの通信モードを [Half duplex] に設定することが可能です。ただし、1000BASE-Xポートの場合、本製品出荷時点で他の検証機器がないため、本製品同士、および弊社AT-A15、CentreCOM 8216XL との検証のみを実施しています。

2.1.1 Ping テストについて

 「オペレーションマニュアル」 2-29 ページ

Ping テストにおいて、対象となる機器が接続されているポートのケーブルを抜き差しした後、[Ping a remote system]を実行した場合、最長で約10分間通信ができなくなることがあります。

3. マニュアルの誤記訂正

3.1 VLAN 最大設定数について

 「オペレーションマニュアル」 2-56 ページ

VLAN 最大設定数の表記に誤りがありました。以下のとおり訂正してお詫びいたします。

Ⓔ 2,047 個

Ⓕ 254 個

